



株式会社アサカ理研

個人投資家向け会社説明会

代表取締役社長

山田 慶太

2019年6月28日

【証券コード】

東証JASDAQ : 5724



1. 企業概要
2. 事業概要
3. 成長戦略
4. 非財務情報と企業価値向上
5. 株主利益の最大化に向けて



1. 企業概要
2. 事業概要
3. 成長戦略
4. 非財務情報と企業価値向上
5. 株主利益の最大化に向けて

1.

希少金属の回収に特化した
資源再生会社

2.

独創技術で市場を開拓する
研究開発型企业

創業時より受け継がれるDNA

豊かな創造性を発揮し、社会貢献を果たす

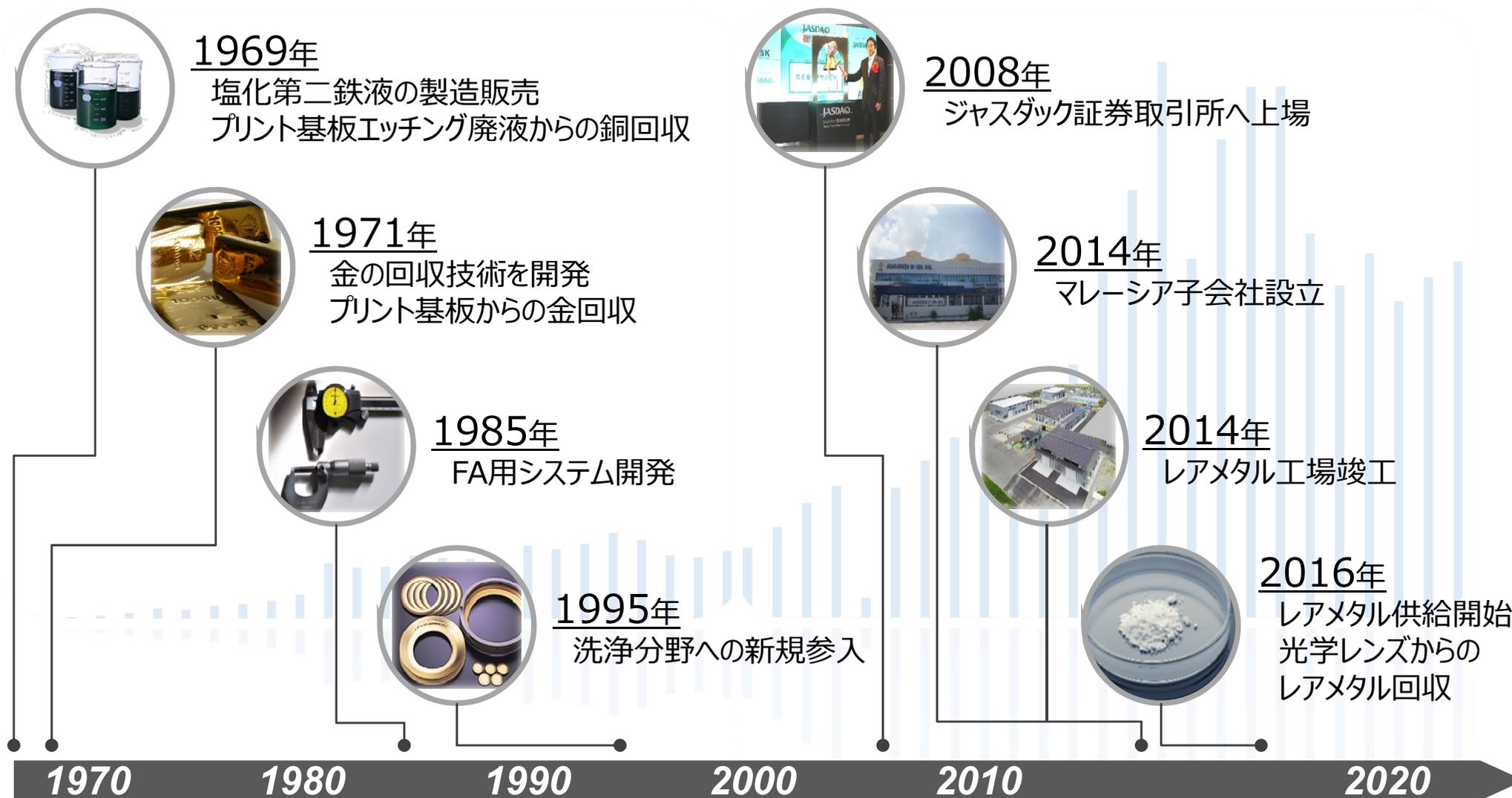
1969 年

アサカ理研工業株式会社 創立

社員 4 名、資本金 500 万円。トタン葺きの小さな工場での創業。
プリント配線基板エッチング工場から排出される廃液を
新液に再生するとともに副産物として銅を回収する事業を開始。



まだリサイクルという言葉もない時代に、
限られた資源の有効活用、環境保全に目を向けた



商 号 : 株式会社アサカ理研
設 立 : 1969年（昭和44年）8月
本社所在地 : 福島県郡山市
資 本 金 : 5億4百万円
従 業 員 数 : 146名（単体）
子 会 社 : 連結子会社 3 社
証 券 コ ー ド : 5724 東京証券取引所
JASDAQスタンダード
単 元 株 式 数 : 100株



代表取締役社長

山田 慶太

※ 従業員数は2018年9月30日現在



1. 企業概要
2. 事業概要
3. 成長戦略
4. 非財務情報と企業価値向上
5. 株主利益の最大化に向けて

都市鉱山からの 希少金属回収



- ▶ 有価金属の回収・精製
- ▶ 精密洗浄による治具の再生
- ▶ レアメタルの回収・精製

貴金属事業

再生・回収技術を 活かした廃液再生



- ▶ 塩化第二鉄液再生
- ▶ 銅回収・精製
- ▶ 光触媒生産

環境事業

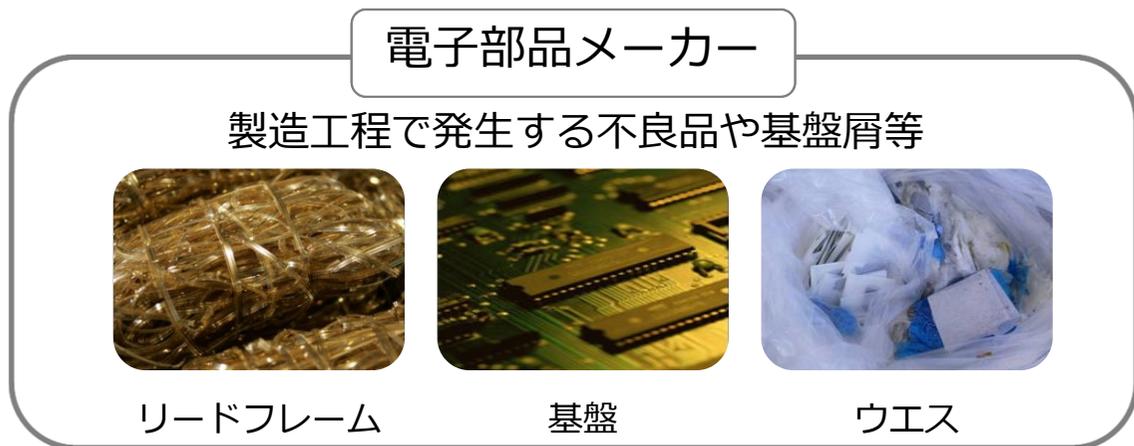
検査・計測を支える システムの提供



- ▶ 品質管理システム開発
- ▶ 生産管理システム開発

システム事業

不良品等から有価金属を回収



強み. 1

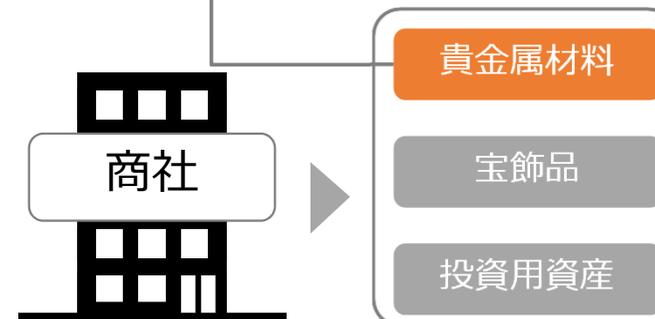
多品種小ロット対応

— 高い顧客満足度

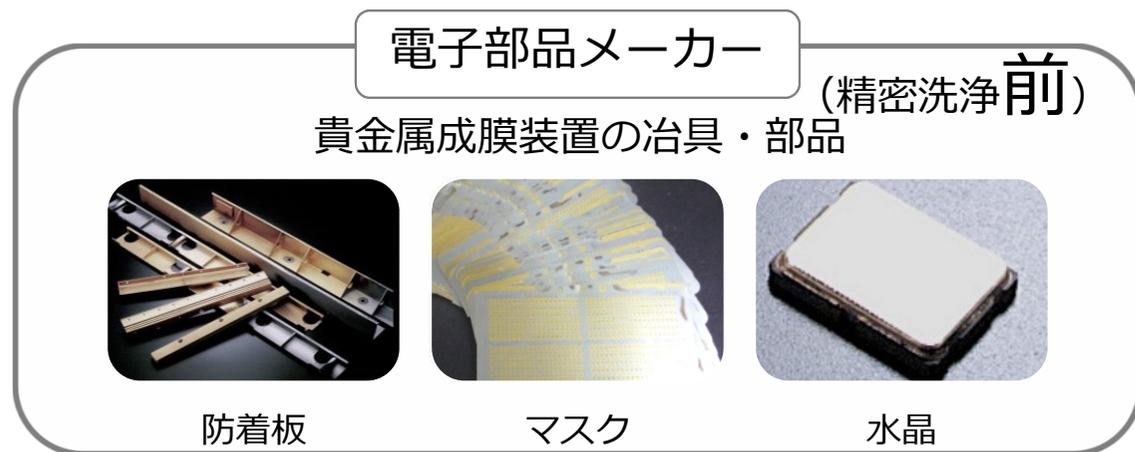
強み. 2

独自の溶媒抽出技術

— 高回収率・高純度



精密洗浄により治具類や先端部品を再生



強み. 1

選択的剥離技術

– 母材を傷めず精密洗浄

強み. 2

短納期の実現

– 最短当日発送

強み. 3

水晶業界での高シェア

– 安定した経営基盤

原材料供給

有価金属回収

地金販売



お客様の要求事項

装置部品の
機能を維持した
高品質洗浄

貴金属の
高い回収率

予備部品を減らせる
短納期

価格競争力に直結

溶媒抽出法による

分離・精製技術

スピーディーかつ回収率のよい分離・精製技術である
溶媒抽出法を他社に先駆けて実用化

貴金属の

選択的剥離技術

独自の薬液配合により金属の溶解速度をコントロール
母材にダメージを与えない洗浄技術

プリント基板メーカー

製造工程の内、エッチング工程で
使用済エッチング用薬液が発生
(塩化第二鉄廃液・塩化第二銅廃液)



集荷

新液供給

アサカ理研

廃液再生

[製造工程]



[塩化第二鉄液]



[銅ペレット]



銅回収
(副産物)

製品販売

下水処理施設

工場廃水処理

製品販売

鉄鋼メーカー

強み.1

創業以来の長い業歴
- 無機薬品技術の蓄積

強み.2

東北地域シェア 90 %
- 盤石な経営基盤

製造メーカー

顧客ニーズ

- 測定データの入力ミス・改ざんを防ぐ仕組みを作りたい
- データ処理・分析時間を短縮したい
- 様々なメーカー機器のデータを一元管理したい

強み. 1

高いI/F技術

– 接続機器を選ばない

強み. 2

品質管理に特化

– ノウハウの蓄積

強み. 3

リピーター率 **97** %※

– 安定した収益源

※ 直近5年間におけるリピーター率

解決策の提供

アサカ理研

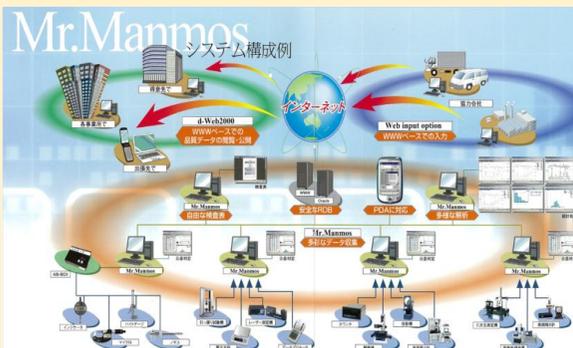
受注・リピート

- ◆ システム導入
- ◆ 製品カスタマイズ
- ◆ 導入の水平展開

提供する価値

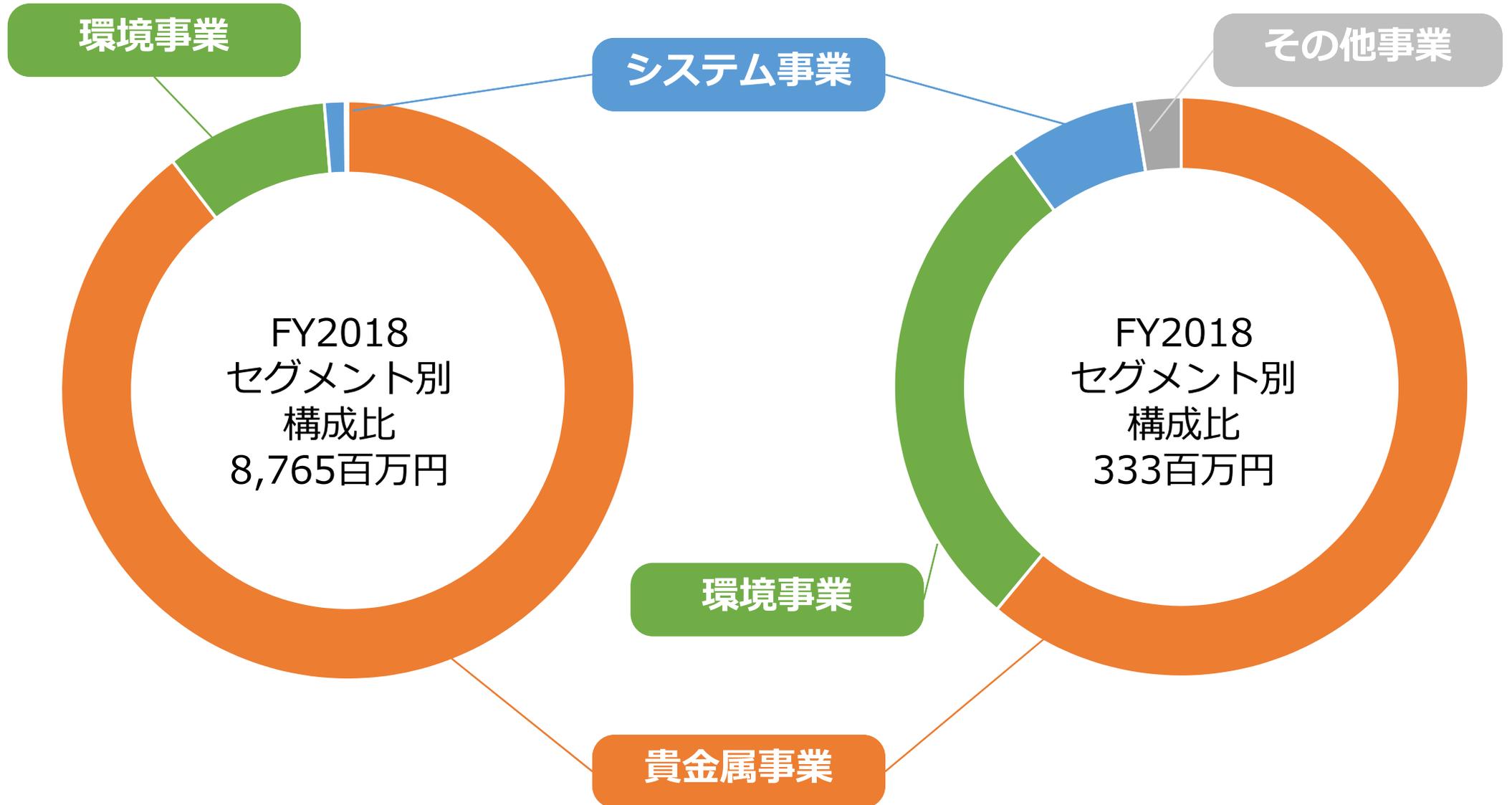
- ✓ 測定データをダイレクトに入力
・入力ミス・改ざんの予防
- ✓ 多彩なデータ処理機能
・解析作業の簡素化
- ✓ データ解析機能
・不適合品の兆候分析 等々

品質管理システム
[Mr.Manmos]



売上高

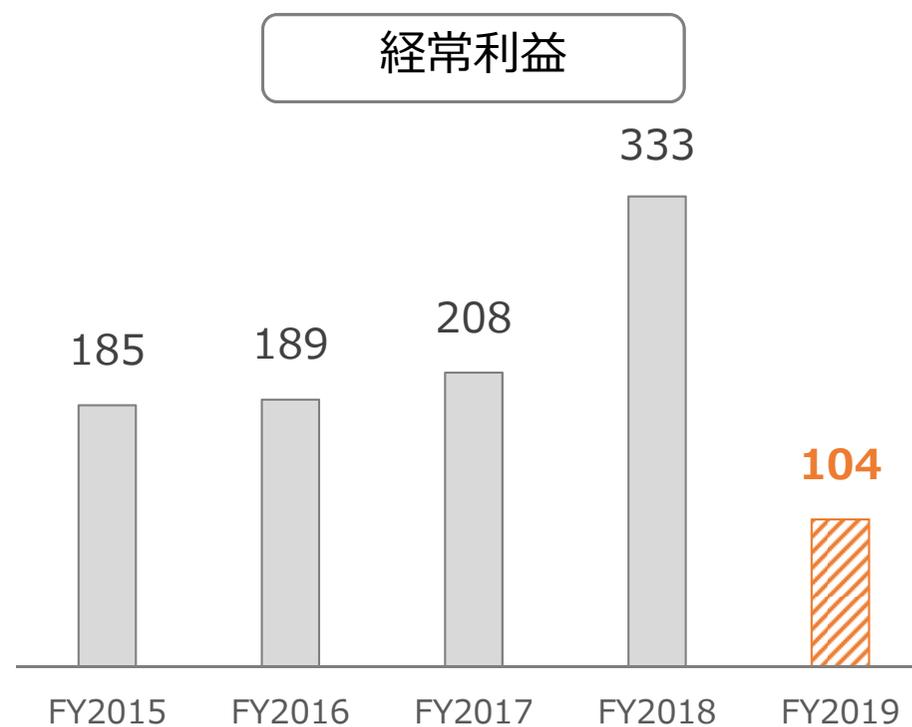
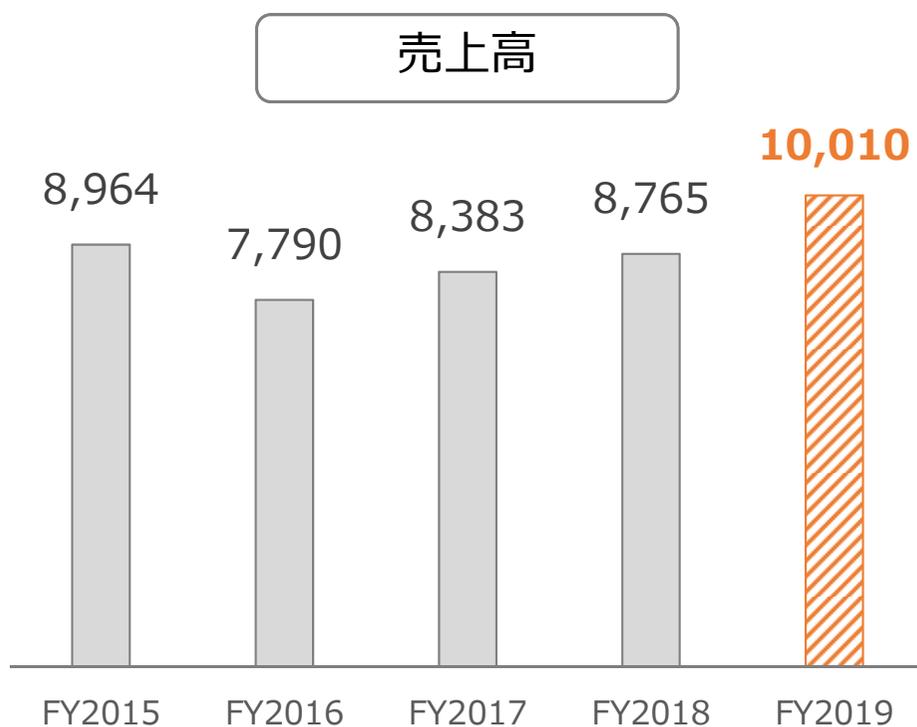
セグメント利益



連結業績の推移



(単位：百万円)	FY2015	FY2016	FY2017	FY2018	FY2019 (予想)
売上高	8,964	7,790	8,383	8,765	10,010
営業利益	210	224	208	337	107
経常利益	185	189	208	333	104
親会社株主に帰属する 当期純利益	125	227	273	234	57



- 前期比較では増収減益。公表予想比では売上高・利益ともに実績が上回った。
- 主要取引先の生産調整や貴金属価格の下落等、事業環境悪化を受け、大幅な減収減益になると予想していたが、他分野での取引拡大、貴金属価格の上昇、環境悪化を考慮した経費抑制などにより、公表予想を上回る結果となった。

(単位：百万円)	FY2018	FY2019	FY2019 上期実績	
	上期実績 金額	上期公表予想※ 金額	金額	対前期増減率 対公表予想増減率
売上高	4,576	4,253	4,900	7.1% 15.2%
営業利益	238	83	132	▲44.5% 59.6%
経常利益	250	79	133	▲46.7% 69.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	191	44	95	▲49.9% 117.9%
1株当たり 四半期純利益金額	75.00円	17.22円	37.52円	

※ 公表予想は修正前数値（2018年11月9日付連結業績予想）

- 前期比増収減益を予想。
- 上期に引き続き、高品位貴金属の売買取引が増加することで増収を予想。
利益面では、主要取引先の減産の影響が継続、拡大傾向にある中においてもレアメタル事業にかかる研究開発を継続して行うことにより、減収となる見通し。

(単位：百万円)	FY2018 通期実績		FY2019 通期予想※	
	金額	対前期増減率	金額	対前期増減率
売上高	8,765	4.6%	10,010	14.2%
営業利益	337	62.0%	107	▲68.3%
経常利益	333	60.1%	104	▲68.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	234	▲14.1%	57	▲75.7%
1株当たり 当期純利益金額	91.98円		22.33円	



1. 企業概要
2. 事業概要
3. 成長戦略
4. 非財務情報と企業価値向上
5. 株主利益の最大化に向けて

業績の特徴

貴金属事業の業績動向に左右される

- 電子部品・デバイス業界の生産動向
- 貴金属相場の影響

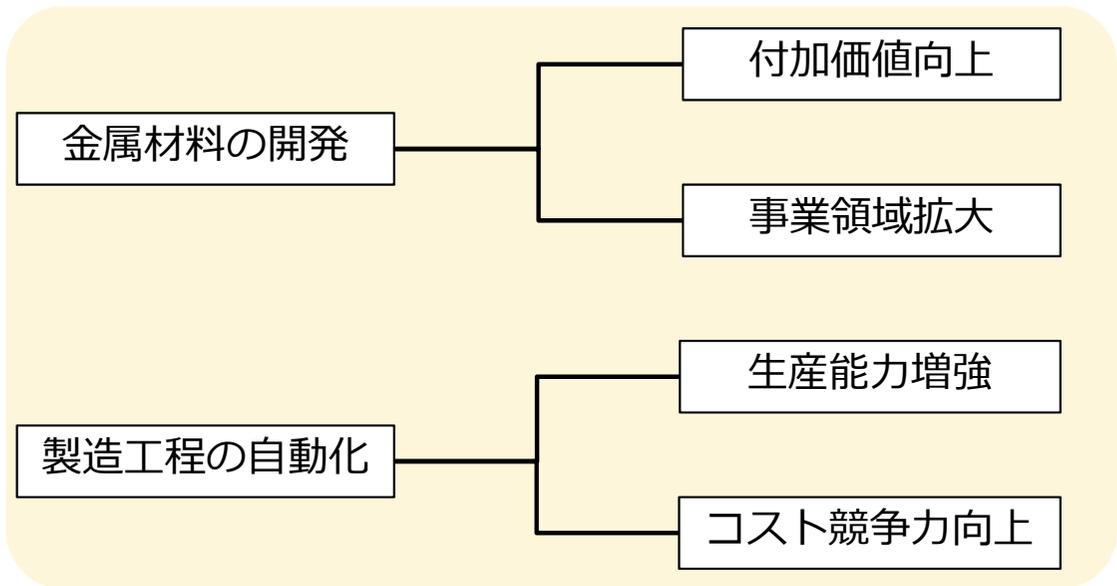
成長戦略

事業ポートフォリオの再構成

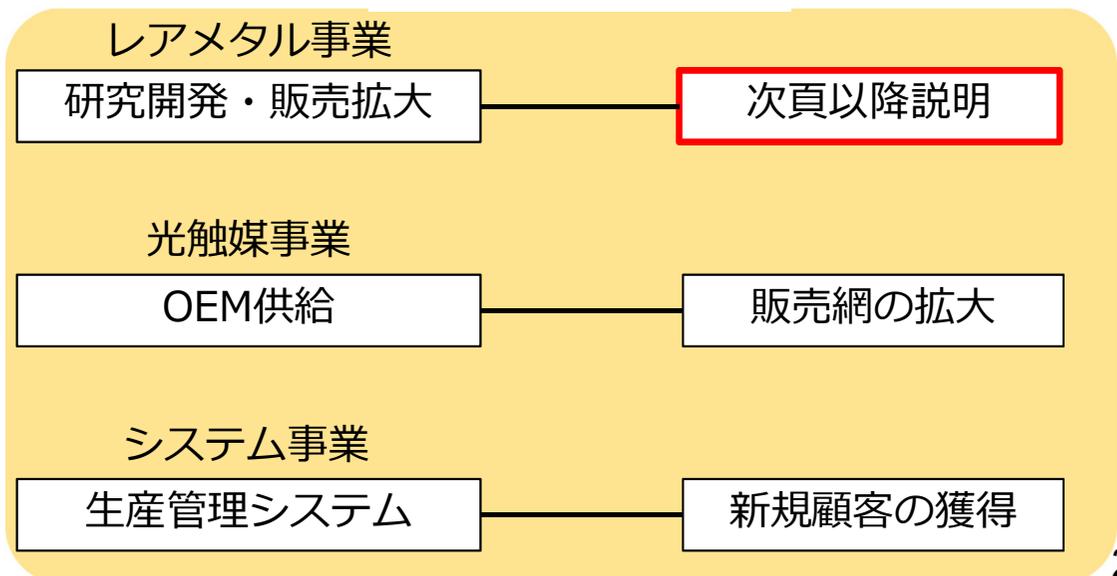
- ✓ 既存の経営基盤を更に強化する
- ✓ 成長が見込める産業への参入

持続的な成長へ

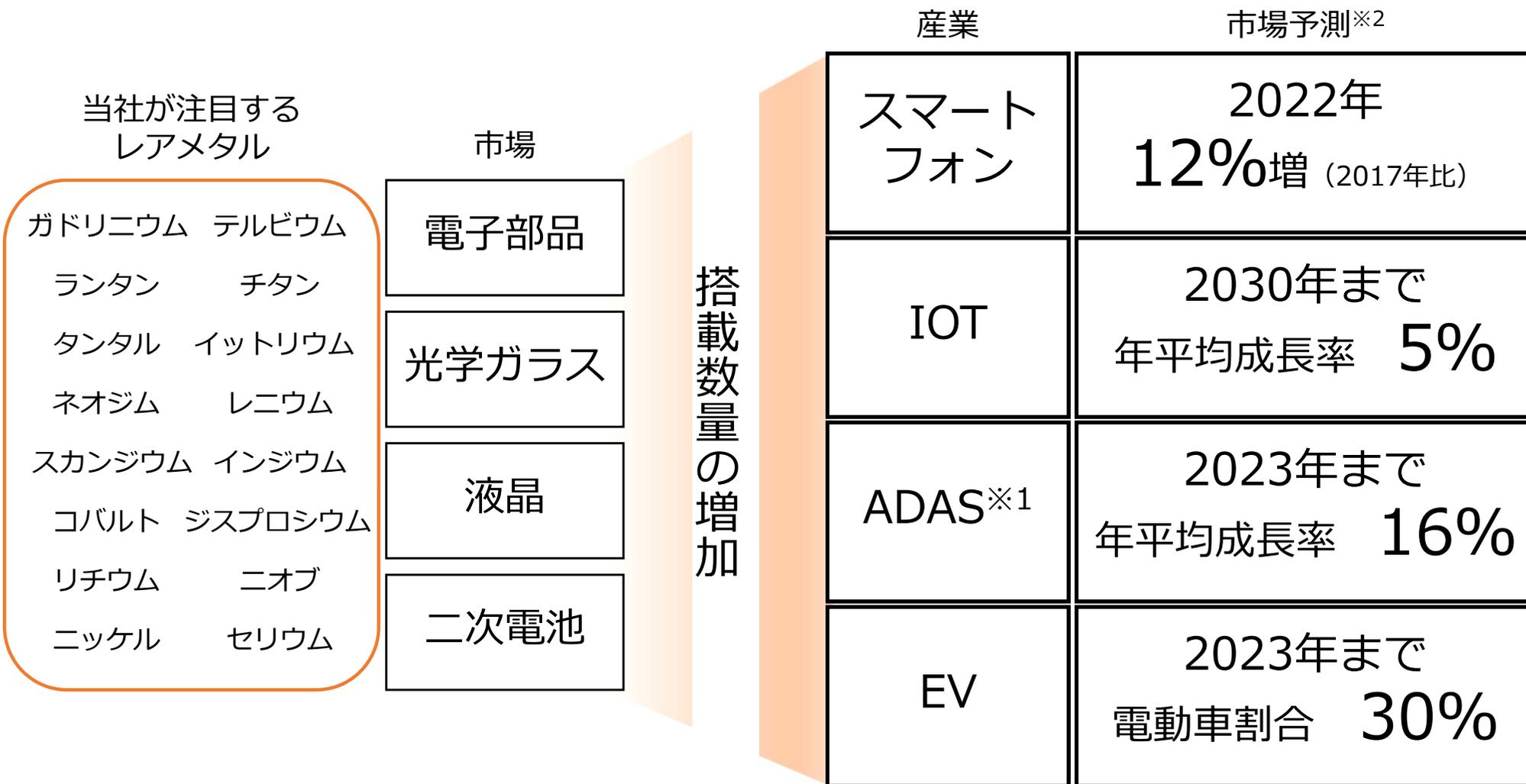
既存領域



チャレンジ領域



5G（第5世代移動通信システム）の追い風もあり、レアメタルが使用される最先端部品市場が拡大



※1 ADAS=先進運転支援システム

※2 当社推計値

コア技術を武器に参入

溶媒抽出法による
分離・精製技術

生産技術開発
センター設置

エマルションフロー法
実証実験成功

光学レンズからの
レアメタル回収成功

2014年 2015年 2016年

リサイクル技術確立

- ランタン
- ガドリニウム

販売体制確立

- タンタル

2019年 上期

主要部品	取り組み	事業環境
SAWフィルタ	<ul style="list-style-type: none"> □ スマートフォン等に使用されるSAWフィルタ向けに高純度酸化タンタルの販売を開始 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 現在はスマートフォンの生産調整等の影響もあり、需要は減退傾向 ■ 次世代スマホが普及する2020年以降、需要は回復する見通し
光学ガラスレンズ	<ul style="list-style-type: none"> □ 販売体制を確立済 □ 新規販売先における評価試験を実施し、取引先拡大に尽力 	<ul style="list-style-type: none"> ■ デジタルカメラ向けの需要が減少する一方で、車載カメラ等に使用される高品質製品の需要は増加する見通し
リチウムイオン 二次電池	<ul style="list-style-type: none"> □ 量産化試験に成功 □ 二次電池材料メーカーにおいて評価試験を実施中 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 次世代スマホやEV等の普及により、需要が大幅に増加する見通し

目標とする経営指標

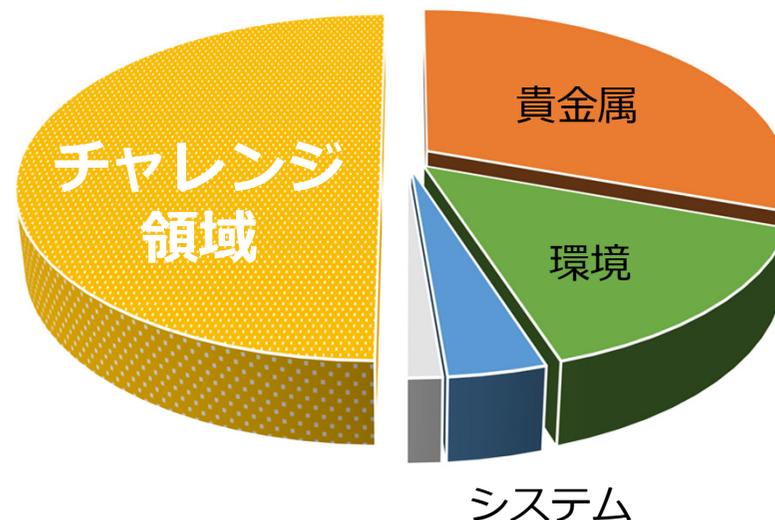
ROE

(自己資本利益率)

10%以上

(FY2018実績 : 8.2%)

目標とする利益構造



技術開発を継続し、市場を創造することで
持続的な成長を果たす



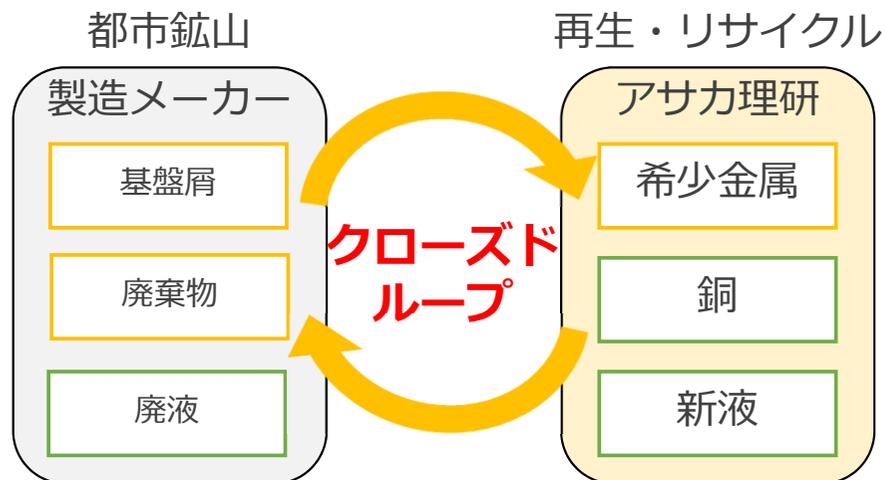
1. 企業概要
2. 事業概要
3. 成長戦略
4. 非財務情報と企業価値向上
5. 株主利益の最大化に向けて

企業価値向上への取り組み

重要課題	主な取り組み	社会的価値	経済的価値	貢献するSDGs
環 境 資源の枯渇 有害物質の発生 資源の偏在性	希少貴金属の再生 廃液の再生	資源の有効活用 地球環境への負荷軽減 サークュラーエコノミー※ 資源の安定供給	貴金属・環境事業売上 8,650 百万円 (FY2018実績)	  
	安全操業 自主環境基準値	地球環境への負荷軽減 地域住民の安心安全	工場の安定稼働 ステークホルダーからの 信頼確保	  
地 域 安心安全な生活環境	業務内容の見直し 教育制度の拡充 健康経営	働きがいの向上 当社を通じた自己実現 社員の健康維持	効率・生産性の向上 社員の安定雇用	   
	株主との対話重視 管理監督機能強化 経営の見える化	株主利益の保護 法令等の遵守 不正不当の排除	企業活動のリスク軽減 投資先として魅力向上	 
社会・人財 働き方改革 働きがい 社員の健康	株主との対話重視 管理監督機能強化 経営の見える化	株主利益の保護 法令等の遵守 不正不当の排除	企業活動のリスク軽減 投資先として魅力向上	 
企業統治 信頼される企業へ	株主との対話重視 管理監督機能強化 経営の見える化	株主利益の保護 法令等の遵守 不正不当の排除	企業活動のリスク軽減 投資先として魅力向上	 

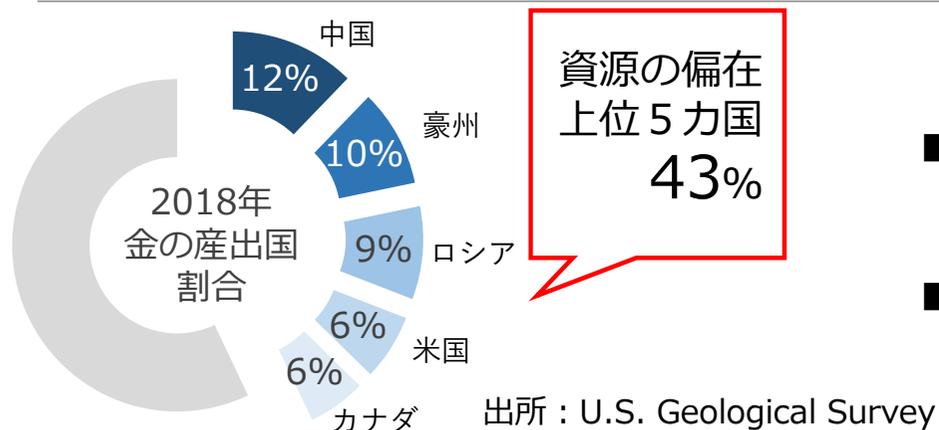
企業価値の向上・持続的な成長

資源の有効活用 地球環境保護



- 新たに鉱山開発を行うよりも環境負荷が軽減される
- サーキュラーエコノミー推進

資源の安定供給



- 政治情勢や地政学リスクに左右されない
- リサイクルを通じた安定供給

安心安全

- 自主環境基準値の設定
 - ・ 法定基準よりも厳しい自主基準を設定し 関係官庁へと自主報告を実施
- 企業内講習会の実施
 - ・ 定期的に安全衛生面に係る講習会を開催

FY2018 休業災害発生

0 件

無災害日数を更新中

働き方改革

- 統合基幹業務システム、ソフトウェアロボット稼働
 - ・業務内容を見直し、作業効率の大幅な向上
- 冬季休暇、春季休暇新設
 - ・有給休暇をより取得しやすい仕組みの構築
- フレックス制度導入
 - ・柔軟な働き方が可能となり、ワークライフバランスが充実

働きがい

- 通信講座導入、資格取得支援(合格した場合、受講・受験料補助)
 - ・技術・知識の取得を支援し、社員一人ひとりが能動的に学ぶ機会を提供
- 人事制度改革
 - ・資格レベルに応じた業務の明確化
 - ・客観的、透明性の高い人事考課制度の導入

社員の健康

- 企業敷地内における禁煙
 - ・全面禁煙とし、敷地内喫煙所を廃止
- 通勤手当の支給
 - ・徒歩通勤や自転車通勤でも、通勤手当を支給

株主と真摯に向き合う経営

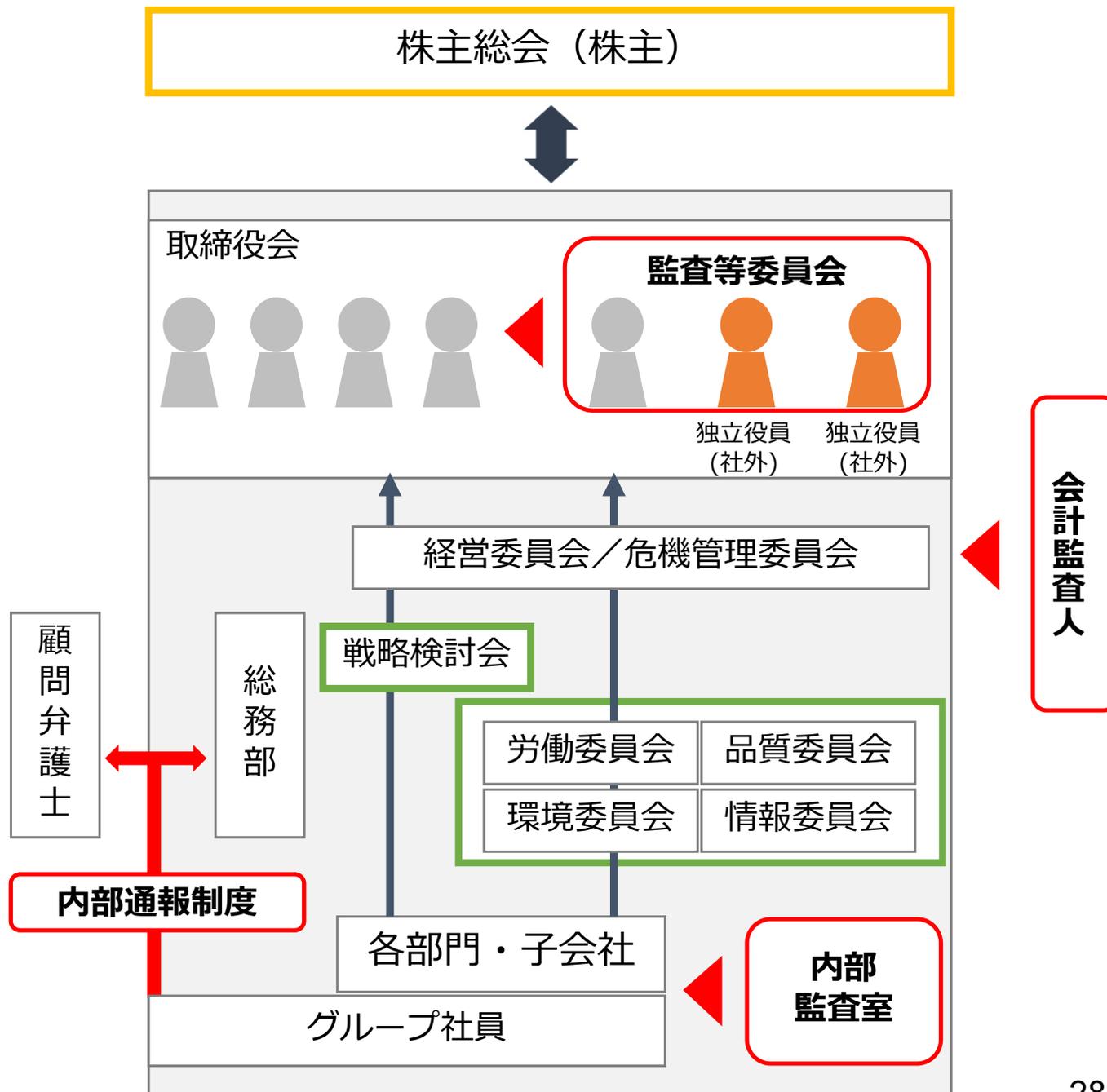
- FDルール of 徹底
 - ・「適時開示規程」制定
 - ・説明会資料の早期開示
 - ・質疑応答の開示
- 株主総会の充実
 - ・招集通知の早期発送
 - ・Webサイトへの掲載
 - ・招集通知を見やすく

管理監督機能の強化

- 監査部門の充実
 - ・監査等委員会を中心とした三位一体監査
- 内部通報制度
 - ・社内社外窓口を設置

戦略浸透と経営意識の共有

- BSC※全社展開
 - ・プロセスのPDCA管理
- 各種委員会の設置
 - ・当事者意識の醸成
 - ・経営意識の共有



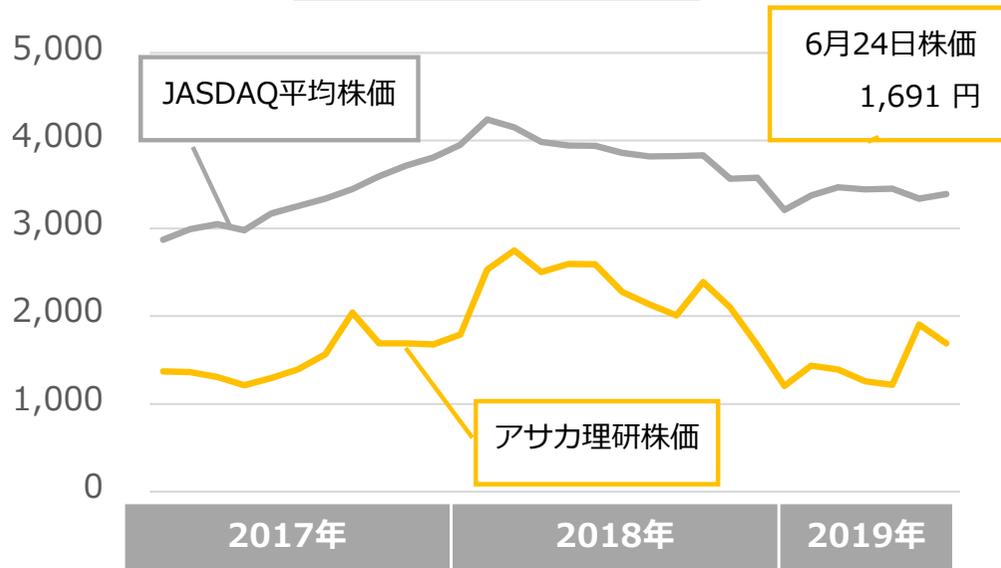


1. 企業概要
2. 事業概要
3. 成長戦略
4. 非財務情報と企業価値向上
5. 株主利益の最大化に向けて

株価推移および配当推移



株価推移



株式情報 ROE

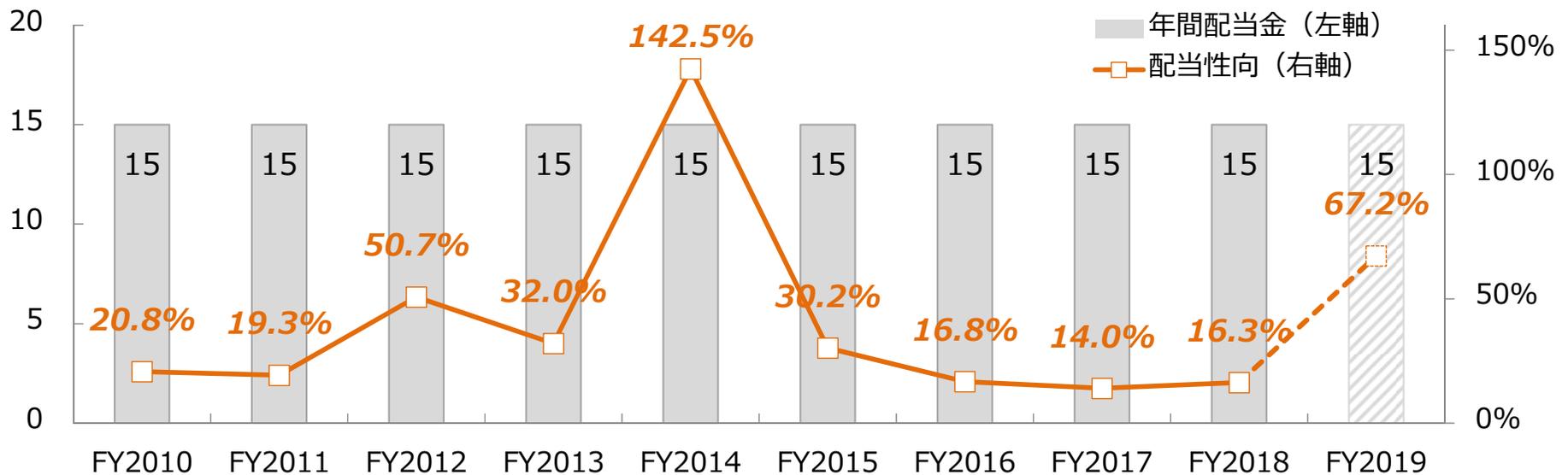
	FY2016	FY2017	FY2018
BPS※1	991.8円	1,088.4円	1,168.2円
EPS※2	89.5円	107.3円	92.0円
ROE※3	9.4%	10.3%	8.2%

※1 BPS = 1株あたり純資産

※2 EPS = 1株あたり当期純利益

※3 ROE = 自己資本利益率

配当推移



- 株主に対する利益還元を経営の重要政策と位置づけ、安定配当を継続する。
- 業界内における競争に勝ち残るための企業体質強化、今後の事業展開等に備えるための内部留保充実等を勘案しながら、業績に裏付けられた成果の配分を行う。

※上場以来、無配当なし

中長期的な企業価値向上 = **株主利益の最大化**



現在は変革期。

安定配当を継続しつつ、レアメタルを中心とする成長産業への投資を強化。

I Rに関するお問い合わせは下記までお願いいたします

株式会社アサカ理研 管理本部

〒963-0725

福島県郡山市田村町金屋字マセロ47番地

TEL : 024 (944) 4744

FAX : 024 (944) 4749

E-MAIL : ir@asaka.co.jp

URL : <http://www.asaka.co.jp/>



参考資料

(2015年 = 100)

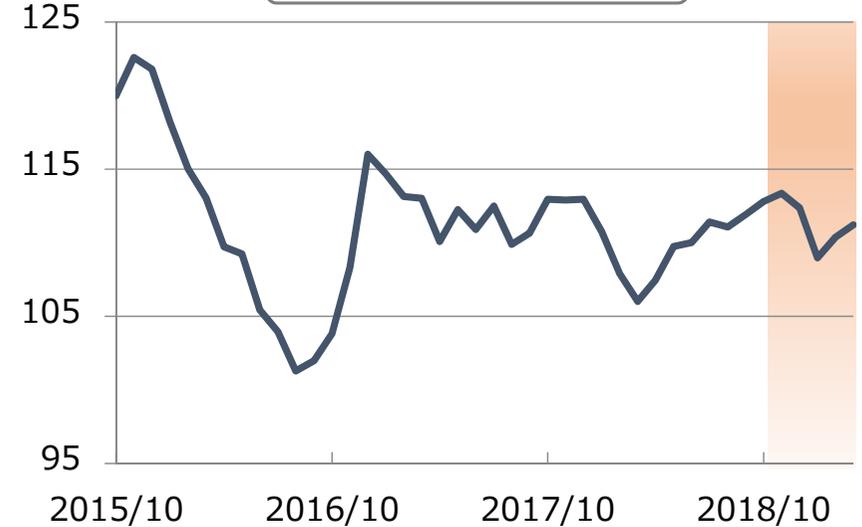
鉦工業生産指数



出所：経済産業省 鉦工業指数（生産・季調済）

(円/ドル)

為替相場



出所：日本銀行（東京市場 ドル・円スポット中心相場/月中平均）

(円/グラム)

金価格

(ドル/トロイオンス)



出所：田中貴金属工業株式会社

(千円/トン)

銅建値



出所：JX金属株式会社

[参考資料] 業界別生産実績



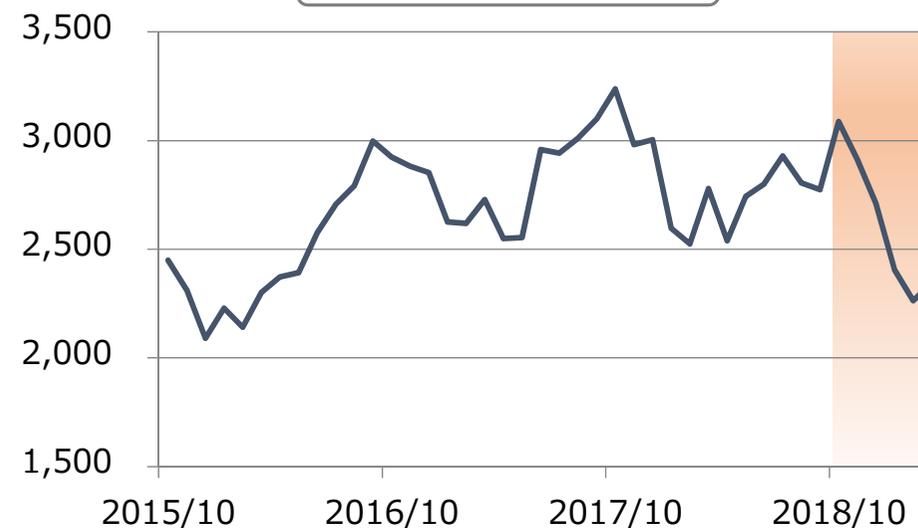
(単位：百万個)

水晶振動子



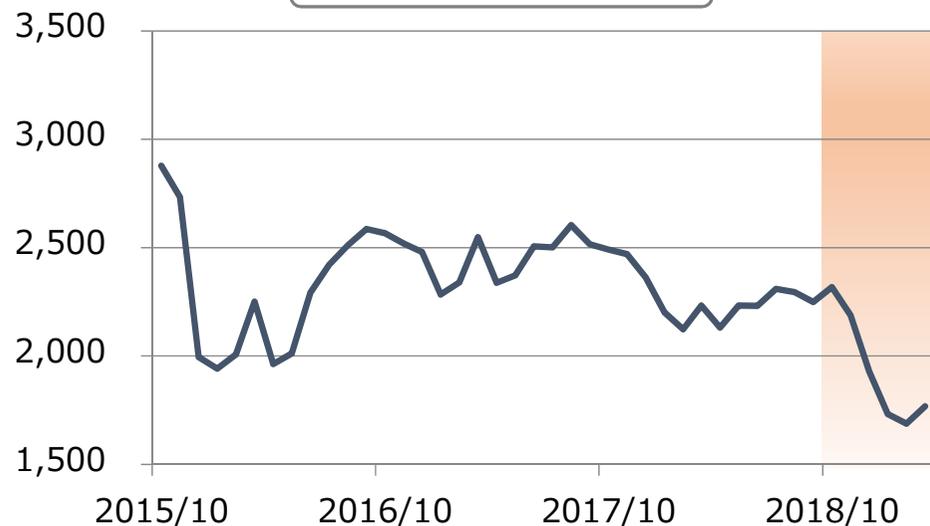
(単位：百万個)

コネクタ



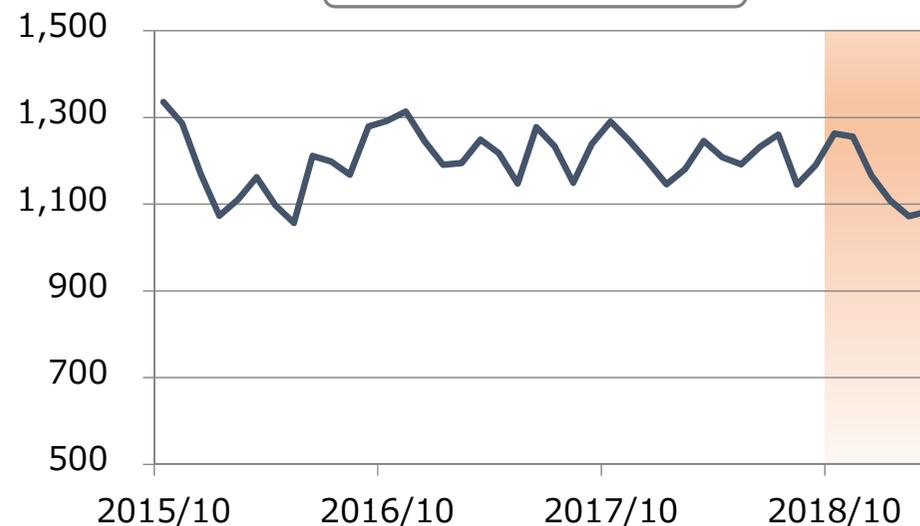
(単位：百万個)

半導体集積回路



(単位：千m²)

電子回路基板



- 本書には、当社及び当社グループに関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により、実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っておりまして今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 本書はいかなる有価証券の取得の申込みの勧誘、売付けの申込み又は買付の申込みの勧誘（以下「勧誘行為」という）を構成するものでも、勧誘行為を行うためのものでもなく、いかなる契約、義務の根拠となり得るものでもありません。